

NO. 307

# じゅんあい

平成24（2012）年10月1日

## 友のために命を



金沢は高山右近を先頭に、キリシタンで彩られた忘れてはならない歴史がある。

1588年、高山右近は、明石6万石の城主であったが、九州攻めの

のち 後、デウス{神}を選んだ理由で豊臣秀吉よりすべての録を奪われ、小豆島などを經由して前田利家の招きにより、金沢へと身を寄せ、加賀百万石の礎を築くべく築城家として、戦術家として茶人としてその身を投じ、加賀金沢の地にとって計り知れない程の功勞者となった。

又、右近の計らいで、クリシタンの内藤如安や宇喜多休閑らがそれぞれ四千石、千五百石で召し抱えられたのであった。

内藤如安は、1614年、大禁教令によって右近ともどもルソンへと追放の身となった。その子、妾女の墓が宝達志水町敷波の大蓮寺にあることを忘れてはなるまい。如安はマニラで医術の面でも喜ばれ、長生きして、かの地に葬られた。

その妹、内藤ジュリアは京都で日本初のベアタスと呼ばれた女子修道会を設立し、ジュリアの働きで豪姫や伊達政宗の妻などがクリシタンとなり受洗している。

ジュリアも右近らと共にマニラへ追放となりそこでも女子修道会を設立し活躍した。

1600年の関ヶ原の戦いで宇喜多秀家は西軍につき戦いに敗れ、その罰として豪姫との間の2人の息子共々はるか遠い八丈島へと流され、悲しみの生涯をかの地で送るのであった。

しかし、豪姫の故に、加賀藩は毎年食糧を送り、秀家亡き後もその子孫らを援助したのであった。

豪姫は61才(寛永11年5月23日)で召されたが、その直前に気がかりであった夫と息子の事が脳裏から離れず苦しんだという。

「秀家殿や子供達の事は我々が面倒を見るから」と約束すると安心したように静かに息を引き取ったという。

明治に入り咎許された宇喜多家のために前田家は東京板橋にある一万坪を提供したという。豪姫一人の故に、加賀藩の援助の手は緩められはしなかった。

「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である。」  
(ヨハネ 15:12)

私の知人が八丈島を旅した時、「金沢から来られたのですか」と、地元の方が態度を変え感謝の心を述べたという。冷たい世界の動きの中であつて何と心温まる美談といえよう。

金沢と、キリシタンとの関わりはさらに深く明治に入ってから、九州浦上から520名ばかりのキリシタンが預けられ、卯辰山で信仰故の苦難があつた。『長崎キリシタン殉教者の碑』と書かれた案内板の坂道を降りてゆくと広場があり記念碑が建っている。

明治2年から6年までの4年間、キリシタンの教えからの改宗を迫られ、寒さ暑さの過酷な生活面がそうさせたのか、105名もの死者が出たことを記している。

かつてトリゴ神父が言った言葉がよみがえってくる。

「もしも、あの禁教令がなかったなら金沢の町は日本で最も栄えたキリシタンの町となつたであろう。」と。



なでしこの歌を残し、住み慣れた金沢をも後にしなければならなかつた高山右近。されど彼の残したキリシタンの香りとその清く強い信仰は、ずっと消えることなく、人々によき感化影響を与えつつ、今日に至っている。

「あなたは、受けようとしている苦難を決して恐れてはいけない。見よ、悪魔が試みるために、あなたがたの何人かを牢に投げ込もうとしている。あなたがたは、十日の間苦しめられるであろう。」

死に至るまで忠実であれ。そうすれば、あなたに命の冠を授けよう。」  
(ヨハネの黙示録 2:10)

「それから、イエスは弟子たちに言われた。

『わたしについて来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのために命を失う者は、それを得る。

人は、たとえ全世界を手に入れても、自分の命を失ったら、何の得があろうか。

自分の命を買い戻すのに、どんな代価を支払えようか。』

(マタイ 16:24~26)

犀川と浅野川に囲まれた美しき町金沢。  
その中で受け継がれてきた清き信仰と注がれてきたキリストの香り・  
…。無駄にしないで手をそっと伸べ受け取りたい。

《高山右近の残したうた》

- \* 草枯れの まがきに 残る撫子を  
別れし 秋の形身とも見よ
- \* おろかなる 老いの涙の うすければ  
夕日の影の 大和なでしこ

殉愛キリスト教会

牧師：山縣 實

〒920-0814 石川県金沢市鳴和町タ 210 Tel・Fax 076-251-2247

E-mail : jun-i-yamagata@ishikawa.email.ne.jp

URL : <http://www.ne.jp/asahi/jun-ai/christ-church/>